



【解説】安房の里見氏と小田原北条氏の古戦場。緑と桜が見事な景色を織りなす憩いの場。毎年3月下旬「桜まつり」開催。写真は、公園内の一角にあるバラ園「ローゼンハイムガーデン」

あじさい部会

中山参道の景観を花で彩ろう！



あじさい部会の概要

「中山参道に花の景観を」という思いから、中山まちづくり協議会の活動の一環として、平成27年にあじさい部会を発足し、活動をスタートさせました。当初は名前のとおり、あじさいを植栽していましたが、参道に四季折々の花を咲かせ、参詣客や地域の人々を楽しませられればと彼岸花なども植えるように。

今では、春は桜、梅雨時にはあじさい、秋には彼岸花と、季節ごとにさまざまな花たちが参道の景観に彩りを添えています。

中山まちづくり協議会

商店会・自治会が中心となり、中山らしいまちづくりや地域の活性化を図るため、平成15年に設立。おひなまつりを開催するほか、景観まちづくりルールの検討を行い、令和2年には景観重点地区指定に繋がる提言を行っている。

活動の様子



6月13日に4人のメンバーが彼岸花と夏水仙を植えました。硬くなっている土を掘り起こし、開花をイメージしながら植えていきます。



←部会長の山中さんがご自宅で育てた球根



あじさい：6月上旬～7月上旬が見ごろ



彼岸花：9月中旬～下旬が見ごろ



夏水仙：8月が見ごろ



今回植えた球根も、このように綺麗な花を咲かせてくれることでしょう！
法華経寺近辺を訪れた際には、ぜひその彩りを感じてみてはいかがでしょうか。





行徳ふれあい伝承館を拠点として、まちづくりに関わるさまざまな活動をしている行徳まちづくり協議会がこのたび、行徳の大事な3つの要素についてまとめた書籍「行徳の歴史と神輿と祭り」を出版しました。

本をつくるきっかけ

その1 コロナ禍

計画していたイベントが次々に中止され、行徳の伝統・文化の啓発ができない！という焦り。

その2 待っているだけでは伝わらない。

ふれあい伝承館を訪れる人だけでなく、もっと自発的に多くの人に行徳の魅力を発信したい。

その3 正しい情報を伝えたい！

神輿と祭りに関するたくさんの情報や資料を整理して事実を伝えたい！

地域の文化・歴史を理解することは景観づくりに
おいてとっても重要です♪



こだわりと本に込めた思い



▲鹿島さん
行徳まちづくり協議会
副会長

これまで行徳に関する郷土史はいくつもありましたが、**初心者向け**のものはなかったの
で、**開いたらすぐわかる**ような本があったらいいなと思ったのも動機の一つ。従来の郷土
史ではあまり描かれてこなかった**神輿や祭り**についてを中心に上げ、**写真やイラスト**
などをフルに活用した**バラエティ豊かな**内容にしたいと考えました。



▲峰崎さん
同協議会
制作委員会代表

制作委員会を立ち上げるにあたり、さまざまな得意分野を持つ**行徳のエキスパート**を引
き込みました。実は**行徳以外に住んでいるメンバー**もいるんですよ。年齢も出身もバラバ
ラなメンバーがこうして協力できたのは、行徳まちづくり協議会という母体があり、行徳
ふれあい伝承館という集まれる場があったからだと思います。レイアウトから編集まです
べて手作りのため苦労も多かったですが、私たちにとってもよい経験になり、何より**みんな**
が楽しんで作業できました。

とにかく「**後世の人のために行徳の神輿や祭りに関する分かりやすい本を**」という気持
ちで作りました。行徳のことをまだ全く知らないという方にも、行徳の魅力が伝われば嬉
しいです。すでに第2弾、第3弾のアイディアもあります。楽しみにしてくださいね。

制作メンバー

() 内は担当

行徳**愛**にあふれた
皆さんです♡



多彩なメンバーが
揃いました♪



令和3年8月 制作スタート！

制作委員会の
立ち上げ。

月1回の編集会議

歴史、神輿、祭りの三章で構成することを決定。
会議は4時間以上になることもしばしば。

景観を学ぶ

制作にあたって資料収集、写真探し、イラスト作成を実施。
事実確認を徹底的に行う中で、知らなかった行徳の景観が見えてきました。

昭和22年の本行徳・本塩付近の航空写真に直線状に見えるものが、ソーラーパネルではない、なんだろう？？

海苔干し場だ！製塩業の衰退により、海苔づくりに転向した漁民が多かった。

江戸川放水路開削の様子がわかる写真が見つからない...

イラストを作成



各町内の神輿が渡御する区分をMAP化。祭りの章では各神社の祭礼についても詳しく触れられていて、タイムスケジュールや渡御ルートも掲載されています。

今と昔のまちの風景が見比べられると面白いということで、同じ位置で撮影



←今の寺町通り

昔の寺町通り
↓ (昭和36年)



行徳の 歴史と 神輿と祭り



令和4年7月完成！

市内各図書館・小中学校や行徳地区の自治会に配布する予定です。



ここがスゴイ！

- ◆ 約10か月の制作期間に取材や資料提供などご協力いただいた方々はなんと200名以上に。
- ◆ 編集会議の雑談から新たな事実を発見し、さらに深堀り。
- ◆ コロナ禍により、これまで開催してきたイベントの時間を有効利用し、徹底的に本づくりに向き合おうというポジティブな思考転換。

今後の景観づくりへの
活用が楽しみです♪



私の景観まちづくり

Vol.4

このコーナーでは、地域で景観まちづくりの活動を積極的に行っている方々を紹介합니다。第4回は、**大屋好成(おおや よしまさ)さん**です。



▲近代和風建築の後藤家



▲右側の本棚に窓ガラスを再利用

この人に聞きました



大屋好成 さん

市川市湊の行徳街道沿いにある、(有)大屋工務店の代表取締役。生まれ育った行徳の街並みを残したいという強い思いから、木造建築の伝統技術の普及に努めている。この活動は行徳だけにとどまらず、市内外へ広がっている。また、現在は仕事の合間にお囃子の活動もしている。第2回市川市景観賞受賞。

後藤家主屋ほか (平成29年度国登録有形文化財)を改修

大正15年に建築された市川市新田の後藤家の主屋の改修を平成24年に大屋さんが手がけました。施工するにあたって観音開きだった窓を引き戸にしたとき、窓として使えなくなってしまったものを本棚の扉に再利用したり、押し入れ内にエアコンを設置し天井に通気口を薄く開けることで、当時の座敷の様相を損なわない工夫を施したりしました。それにより雰囲気や良さを崩さずに、かつ快適に暮らせるように、一つ一つ家主の方にも説明をしながら丁寧に改修を行ったそうです。

＼お囃子の音って、ワクワクしますよね♪／



文政13年(1830年)から継承されてきた湊のお囃子。昭和31年に、残念ながら一度消滅してしまいます。ところが、6年前の平成28年、大屋さんのご近所の家天井裏から、お囃子に使っていた大太鼓が1つ、締め太鼓が2つ出てきたことから、本塩や下妙典のお囃子保存会のように、お祭りを盛り上げたいという声上がり、大屋さんは復活に向けて動き出しました。

しかし、まわりにお囃子経験者がいなかったため、さまざまな人脈から多くのお囃子保存会を紹介してもらいました。その中で特に勢いのある、自分たちに合う「師匠」と出会い、勉強・練習をスタートさせました。

初披露は、練習を開始してから約3か月後の水神祭。またその後には10月の四ヶ村例大祭。
「今思うと無謀だったかな」と大屋さんは笑顔で振り返ります。

今後も毎週のように集まって練習を積み重ね、お祭りを盛り上げるとともに、新たにお囃子を学びたいという人たちが巻き込みながら、永く続けていきたいということです。

「行徳」や「夏」の景観を、音でも感じてみませんか。



▲天井裏から出てきた太鼓



▲令和元年の湊水神祭で初披露